



広重版画より 三島 朝霧

第2347回例会

2023.3.23雨

司会 柴崎恵子君

口-タリ-ソング 「日も風も星も」
指揮 南木一仁君

会長挨拶 副会長 平出利之君

台湾の苗栗RCの周年記念式典に参加をされた方々、ご苦労様でした。久しぶりの台湾ですので、大変盛り上がったのではないのでしょうか。私は12日(日)に静岡でPETSがあり、赤池次年度幹事と行って参りました。PETSは次年度会長・幹事の集まりです。いままでのPETSは1泊2日で行われていましたが、懇親会もなく日帰りでの開催になりました。開会の冒頭、浅原ガバナー体調不良により欠席のアナウンスが流れましたので、驚きました。志田パストガバナーが急遽代役をつとめました。まずは次年度の国際ロータリーの会長のご紹介がありました。会長はスコットランド出身のゴードンRマッキナリーさんです。2620地区ガバナーは浜松ハーモニーRCの中村皇積さんです。このPETSの話は、中村ガバナーエレクトと野口パストガバナーの話がメインになりました。具体的な事になりますが、次年度はポリオプラス「古着でワクチン」プロジェクトが実施されます。これは、古着を回収・販売をしてミャンマー・ラオスの子供達へポリオワクチンを届ける大規模なプロジェクトとなっております。後は分科会に分かれてのディスカッションがありましたが、会員増強の話題や、マイロータリー入会・第一グループ共通のイベント開催等の話がありました。これから具体的な事が出てきますので、次年度の内容等検討しなくてはいけないなど感じてきました。

出席報告

	出席総数	出席率	メ ッ ク ア ッ ク ラ ブ	修 出 席 正 率
前々回	41/50	82.00%	46/50	92.00%
今回	42/47	89.36%	会員総数	55名

欠席者 清水君、諏訪部(照)君、千葉君、三田君、森藤君



幹事報告

幹事 古屋英将君

- ①本日は通常例会です。卓話は苗栗52周年事業にて大活躍された町野暉さんです。よろしくお祈りします。
- ②ゆめワーク三島の案内が例年同様に三島市教育委員会から来ましたので確認をお願いします。
- ③4月の予定
4月6日(木)通常例会 卓話は岩崎さんです。
4月13日(木)夜間例会 親睦例会です。
4月27日(木)通常例会 地区協議会報告です。

卓 話

自己紹介

町野 暉君

私は町野という名前ですが、元々、中国の出身で名前が丁 暉という名前だったです。5年前、帰化して苗字は町野になりました。私の故郷と日本とのかかわりについてお話ししたいと思います。

生まれ故郷は中国の河南省鄭州という町で、河南省は黄河中下流に当たる地域です。三国史の魏、曹操が支配したエリアで中国の歴史、夏から金の時代にかけて20の王朝が河南省に都を置きました、中でも安陽、洛陽、開封は重要な歴史文化都市で文化遺跡がたくさん残っています。また、日本でも有名な少林寺拳法がありますが、少林寺拳法の発祥地は私の実家鄭州から車で2時間ぐらいの距離で、中国国内だけでなく、アフリカやアジア、ヨーロッパなど海外の若い人々がカンフーを習いに来る人が多いです。お寺の周りにカンフーを教える学校がたくさんあります。他には、陳式太極拳も有名です。中国人の苗字は1500以上あります、その6割を超えた苗字が河南省から生まれたそうです、中華民族のルーツとも言える地域です。林という苗字も河南省から生まれたと言われていて、台湾にも林という苗字が多いです。20何年前、林という苗字が生まれたお寺に行った事があります。それは河南省の衛輝市にある比幹廟というお寺です。当時のお寺の人の話によると、中国の殷・商の時代、(昔の中国の王朝)、比幹が商王朝の良い大臣で、商の王様が悪い人の話を聞いて、比幹が商王に殺されたんです。比幹の奥さんと子供が逃亡し、森林(森の中で)の中で、避難生活して森の果物で何とか生き来れて、その後の新しい商の王様が比幹の子供に林という苗字を授けた、それは林という苗字の先祖らしいです。お寺の応接間に香港、台湾、東南アジアの林という苗字の人々が先祖の墓参り、毎年の春、このお寺を訪れます。

客家という言葉があります。台湾で客家が多いですが、最初が秦の時代あたりから始まって、客家が使っている言葉はいわゆる昔の漢民族が使った言葉で、昔の中国語ともなっています。客家は黄河流域から南地域に移してもともと中原出身の人々と言われています。河南省は中原と言われてる地域で、中国歴史上、中原地域において、戦争や戦乱が多く、統治者達がみんなこの地域を抑えようとする地域です。客家達は戦乱や戦火から逃れるため、南に移して、現在、いわゆる福建省や広東省などに客家という人々が生まれたわけです。代表的な人物として、孫文、鄧小平、台湾の李登輝、蔡英文、シンガポールのリーゲアン、タイのタクシン兄弟など。

台湾の苗栗市にも客家たくさんあって、苗栗のはかりさんは10年前、私の故郷に行った事があって、彼から自分の前世がここですよと言ってくれた事があります。はかりさんは客家かどうかは知りませんが、苗栗の客家達は多分1千年前から中原から南下して現在の苗栗に辿り着いた訳ですね。

次に、私はなぜ、日本を選んだかという、1980年代の中国は鄧小平が改革開放をやって、外国の文化が中国に入るようになり、当時の中国人が外国の事、外国人と接触の機会が増えて来ました。1972年日中の国交正常化すると民間交流が次第に頻繁になり、日本の映画、ドラマが次々と、中国で放送、上映されるようになりました。中国の若い人がそれを見て、日本の事を知り、日本に憧れて日本語を勉強したい、日本へ行きたい人が増えて来ました。

私もその中の一人でした。八十年代、上映された日本映画で中国人、特に現在、50歳を超えている中国人に良く知られている日本の俳優の名前は高倉健、中野良子、栗原小巻、山口友恵、三浦友和など、ドラマだと「北の国から」、北海道を舞台にしたドラマ、シリーズが多く、中国で見た俳優は子供で日本に来たら、みんな大人になって、驚いた事があります。山口百恵、三浦友和、宇津井健が出演した「赤い衝撃」というドラマは中国ですごく人気あって、このドラマを見て日本の社会や日本の風習等、日本の事を知ろうとするわけです。日本のドラマを見て中国人は日本の女性に対するイメージとして、日本人女性が優しく、旦那が仕事で帰宅すると奥さんが玄関で正座して、旦那を迎えてお帰りのさいというイメージを持つようになりました。「赤い衝撃」を見て、私は三浦友和が日本人の美男子でハンサムだと思いました。

1990年3月に日本の川崎に来て、ここは映画やドラマを見た日本と同じ、一階建てや二階建ての住宅が多く、建物がみな同じに見えたんです。当時川崎駅から住んだアパートまでの道に慣れなくて、アパートの近くに高層ビルを建てる工事あって、高いクレーン車を目印してアパートに帰れるようになりました。

私は八十年代の後半に日本語を勉強したのですが、当時はインターネットやスマートフォンもない時代で、日本語を教えてくれたのは中国人先生でした。私は当時、日本の映画やドラマを通じて日本の社会を理解しようと思いますが、なまの日本語を聞くチャンスは無かったです。当時、中国のテレビで「小さな旅」という日本語教育番組がありました、中身はほとんど分からないのですがあの番組を見るのは好きでしたね。これはいわゆる日本だ、日本人がしゃべる日本語だという感じてした。すごく興味津々でした。昨年、ある日曜日、テレビで放映されている「小さな旅」を見かけたんです、いまでも放映されているんだと感動しました。あのメロディーは凄く懐かしかったです。

ここで日本語と中国語の同じ漢字でも意味の違い、漢字をみなさんに紹介したいと思います。日本語の「手紙」という漢字は中国語の「トレットペーパー」という意味、「勉強」という漢字は中国語の意味は無理やりという、「怪我」は自分を責めるという意味、「娘」はお母さんの意味、「愛人」は旦那であり、妻であり配偶者の意味です。因みに中国語の愛人の意味は「小三」、つまり第三者で三を言うのです、小を付けると可愛いという意味もある。また、昔の日本語の先生から聞いた話で、戦時中、中国人に助けてもらった兵隊さんが中国人にお礼を言いたくて、紙に「有難う」という文字を書いて、中国人に見せて感謝の意を伝えようとしたのです。その中国人はもちろん日本語分からない。中国の人は漢字で意味を理解しようとするので、その書いた「有難う」という文字を見てからなんと逃げたそうです。「有難」という二文字は中国語だと、大変な事ある、困難等があるという意味です。当時は戦時中で、中国の人は兵隊さんから情報をくれて、また大変な事あるよと理解したようです。全然、感謝の意味と関係ない事になってしまいました。同じ漢字で、感謝であれば、通じたはずですが、同じ漢字でも日本語と中国語の意味が違いますね。

後、習慣の違いから言うと、日本人は痛い時は痛いと言う、中国人はお母さんと言う、つまり、お母さんを助けてもらうという事です。聞いた話ですが、昔の旧満州、みな日本語を習って、子供がだれか日本人、中国人は分からなく、叩くと痛いと言うか、お母さんを言うかによって、区別らしいです。

※紙面の都合で会員祝事・スマイルは次号に掲載します。

(週報担当: 森藤 賢)